

川の概要

綾瀬川は桶川市小針領家地先を起点に、東京都葛飾区四つ木地先で中川と合流する。起点部は1600年頃に伊奈忠治により築かれた備前堤があり、その排水口が河川起点となっている。

大正9年から昭和4年にかけて中下流の河川改修が行われ、上流部については昭和7年から同9年にかけて県営用排水幹線改良事業綾瀬川上流地区により改修をし用水堰等の撤去を行い排水改良を行った。

江戸時代においては、荒川瀬替えにより本川の水位低下をみたため、流域内の新田開発が進み、延宝8年(1680)に下流部で隅田川と分ける新水路が設けられ、綾瀬川は一筋の流路となった。しかし、幕府より用水堰止禁止令が出され排水河川としての位置付けとなり、江戸との舟運が盛んになった。

川のデータ

< 流路延長 >	49.0km
< 流域面積 >	165.2km ²